



山陰游草 松坡

陪揚鶴大江先生游山陰道七月九
平田一望綠盈盈過分秋雨欲晴賦
歎書生萬錢騎鶴揚州客千里思歸張子
陰道上按詩行 鴨涯客舍

絃歌稍歇畫橋西獨影枝枝映浪迷依舊
水禽啼 宮津客舍二首

百尺欄干氣勢雄披襟快受北溟風千峯
驚浪中

山陰探勝詩 揚鶴

西京漫興
一水鴨東消暑氣鴨西絲竹隔流聞苦吟
多夜雲

余與田邊松坡子欲探山陰名勝及
見際翌次其韵併請政要川子亦豫
果故第四句及之

漫游不問月影盈幽興最關天雨晴雖有
玉溪生駕車千里搜烟景聯轡半宵忘旅
河取次賦同行 入丹波



松坡文庫研究会 第6回講演会

「山陰游草 松坡、揚鶴大江卓との旅」

講師：袴田 潤一（松坡文庫研究会代表）

日時：2023年10月7日（土）

14時00分～16時00分

会場：鎌倉市中央図書館 3階 多目的室

〒248-0012 神奈川県鎌倉市御成町 20-35

※ JR・江ノ電 鎌倉駅から徒歩約7分



田辺新之助（1862～1944 号は松坡）は東京開成中学校校長在職中、逗子に第二開成学校、鎌倉に鎌倉女学校を設立し、一時は三校の校長を兼務し、鎌倉女学校では30年近くにわたって校長を務めました。優れた教育者として高く評価されています。一方、少年時代から漢詩を学び、晩翠吟社同人として活動を始め、明治・大正・昭和の日本漢詩壇を代表する漢詩人として大きな業績を残しました。

明治45（1912）年7月中旬、松坡は大江卓（1847～1921 号は揚鶴）と二人で山陰を旅しました。大江卓は明治初めの神奈川県令としてマリア・ルース号の中国人苦力（クーリー）231名全員を本国に送還させるなど優れた政治家であり、後に経済界で活躍しました。更に漢詩をよくし、鎌倉極楽寺に別荘を構えていたこともあって、松坡とは親しくしていました。

本講演では二人がそれぞれ旅の後にまとめた連作漢詩集などを手掛かりに二人の旅の跡を辿ります。旅程を再現し、名所旧跡を詠じた漢詩を味わい、併せて当時の交通事情にも触れたいと思います。

井 松坡文庫研究会

鎌倉市中央図書館の「松坡文庫」（田辺新之助旧蔵書）、及び田辺新之助その人についての調査・研究を目的に2018年に設立された研究会

<参加申し込み方法など>

定員 30名（申し込み順）

申し込み方法（受付開始 9月1日）

電子メール或いは電話で下記にお申し込み下さい。

電子メールの場合、件名を「講演会申し込み」、本文に氏名・フリガナ・電話番号をご記入下さい。

電子メール chulib@city.kamakura.kanagawa.jp

電話 0467-25-2611（鎌倉市中央図書館）

<お願い>

- 参加される方は新型コロナウイルス感染症の感染防止にご協力下さい。
- 感染拡大による社会状況の変化によっては、講演会を中止する場合があります。予めご了承下さい。

主催：松坡文庫研究会

共催：鎌倉市中央図書館

後援：図書館とともだち・鎌倉 逗子開成中学校・高等学校